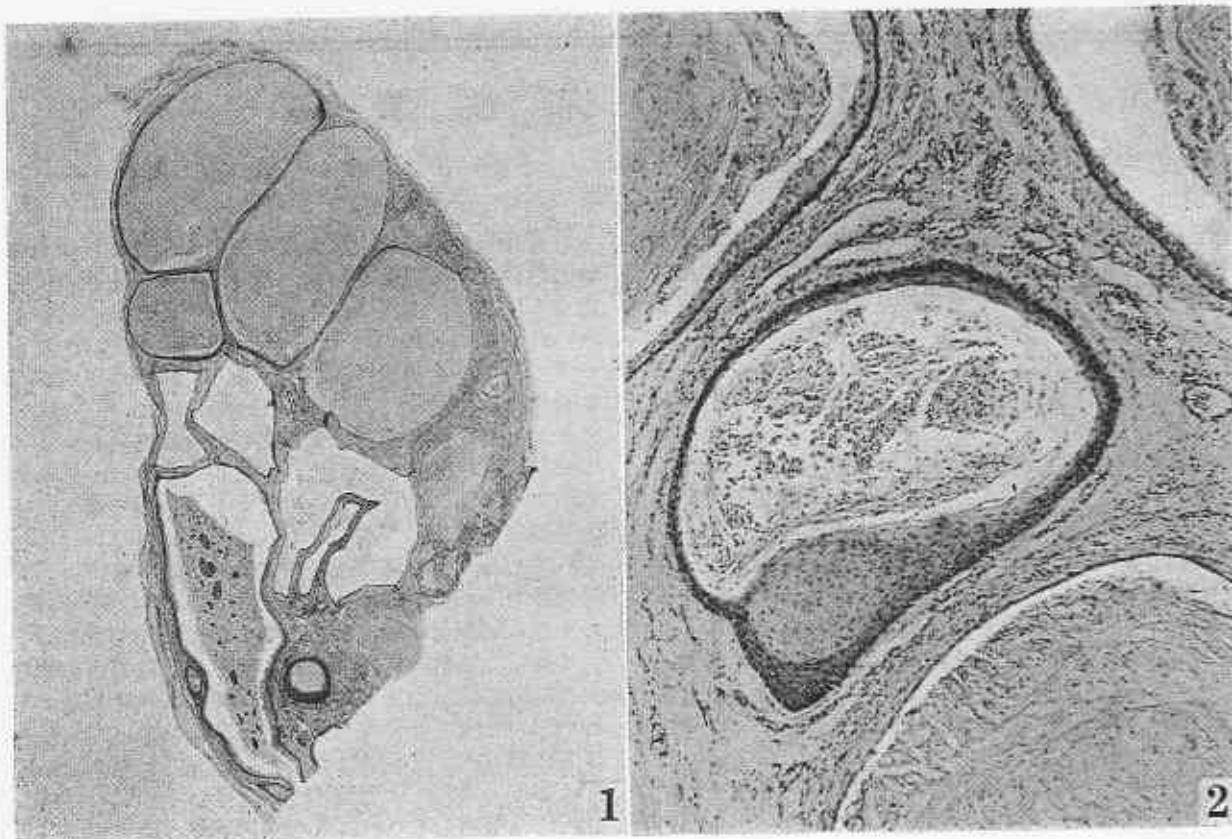


豚輸卵管円柱上皮の重層扁平上皮化生

農林省家畜衛生試験場中国支場出題，第6回獣医病理学研修会標本 No. 87



標本は6か月令の豚(中ヨークシャ)の輸卵管である。この豚は生後25日目に発情物質の筋肉注射を受け、注射後3日目から外陰部の発赤腫脹、乳房肥大を示し、殺時まで続いていた。輸卵管の肉眼的所見は、全体に著しく膨大して所々くびれを生じ、膨大部には多量の漿液をいれ、菲薄化管壁には大小不同の灰白色化膿巣様部が散在していた(写真1)。卵管采は卵巣と癒着し、子宮には膿様液貯溜を認めた。

この輸卵管の組織変化は、研修会提出標本とともに数か所をしらべて次のようなものであった。輸卵管の固有構造はほとんど失われ、肉眼で認めたのう胞状部あるいは化膿巣様部は、イ) 単層円柱上皮が壁に並んだのう胞状部で少量の脱落上皮を混えた漿液様物をいれるもの、(写真2) ロ) 重層扁平上皮が壁に並んだのう胞状部で多量の細胞破片、脱落上皮、多形核白血球、好塩基性無構造物塊をいれているもの、ハ) 重層扁平上皮が僅かに

壁に残るかあるいは全く上皮脱落ののう胞状部で漿液状物を容れるもの、ニ) 重層扁平上皮の角化が内方に進み鱗層状であったかもタマネギ断面状を示すもの(表皮状化)(写真2)、などが交錯したもので、大小区々かつ多彩である。これらの変化を示す上皮層の基底層には、太く明瞭な嗜銀線維がある。間質結合織はかなりよく発達し、表皮状化所見に接する結合織の中には巨細胞形成を伴う反応巣、血管増殖、および線維腫様所見も散見される。また、この間質には、小巣状リンパ球浸潤、リンパ球および好塩基性単核細胞のびまん性浸潤がある。

以上の変化は、輸卵管円柱上皮の重層扁平上皮化生と認められる。

上皮化生の原因は、慢性刺激があげられている。本例は特発性のもので詳しい調査を欠いているので、原因に関する考察はしがたい。